



菅生学園報

第9号 2022年 新年度号



理事長メッセージ



理事長
島田 幸成

= 部門間の「壁」を取り除き一貫教育を進めよう =

2022年度がスタートしました。コロナも収まると思いきやまた、新しい株の感染が懸念され、また、ロシアのウクライナ侵攻による国際情勢の不安定要因も重なり、今後の動向が読めなくなっています。

さて、皆さんは養老孟司さんの著書「バカの壁」という著作を覚えているでしょうか？「バカ」という言葉がショッキングなタイトルですが、東京都内にあるあちこちの「バカの壁」を取り除けば都民の暮らしがよくなるという施策を進めたのが、猪瀬元東京都知事です。猪瀬知事が手始めに始めたのが都営地下鉄と東京メトロの一元化でした。その象徴的なものとして、九段下のホームの壁を撤去し、乗り換えをスムーズにしたことはマスコミでも多く取り上げられました。

そして、猪瀬知事の時代に設立が計画されたのが東京都立小中高一貫校の立川国際学園です。教育分野で小中高の壁を取り払って一貫教育を進めるというのがこの学校のコンセプトです。計画段階からずいぶんかかりましたが、今年度から小学校がスタートしました。定員80名ですが、入試の倍率は30倍で今後も注目されるでしょう。

菅生では、15年前に初等学校が設立され、幼小中高の一貫教育体制が整いました。一貫教育を進める中、各部門間のいくつかの壁を取り除いてきました。例えば、学びの城6Fの食堂、カフェテリア。以前は中等の生徒のみ利用し、初等の児童は教室で弁当を食べていました。ご家族も毎朝弁当をつくるのも大変でした。そこで、私は初等の児童も素晴らしい学びの城食堂で食べさせられないかと提案しましたが、その当時は初等と中等の校長が別々で、前の中学校の校長が「初等には使わせない。」と頑固でした。その後、初・中の校長が兼務となり（現あきる野市教育長の丹治先生）初等の児童も食堂を利用しています。高校特進も後に来たので、現在は、初等、中等、高校の特進の生徒、野球部寮生も利用し、大変喜ばれています。学びの城食堂は菅生学園一貫教育の象徴的な場所ですね。先日、NHK「サラメシ」が学園の食堂を取材に来ましたが、7月7日の放映が楽しみです。

垣根を取り払えば、無駄もなく、協力することにより力も増すのです。今は初等、中等は職員室が一緒。校長も一緒、本年度から教頭も初等中等兼務となります。おそらくこうした学園は都内でも数少ないでしょう。「壁」というのは物理的な壁もありますが、心理的な「壁」のほうが大きな影響があるのではないのでしょうか？菅生学園では是非この「壁」を取り除き、どこもまねをすることができない先進的な一貫教育を進めていきたいと思っています。

菅生のあゆみ



副理事長
島田 洋子

3月の卒業・進学を目前にしたある日の昼下がりのことです。いつも通り坂道のところで、中等部の一人の生徒に出会いました。バス停までの道々、中学の勉強の内容や、生活の様子を楽しそうに私に話をしてくれました。主な内容は、将来の夢の話や好きな科目など、そして、今勉強していることを将来に繋げたいという願望でした。今からしっかり目標を立てて勉学の道歩んでいる姿に私は感心し、尊敬の念を抱きながら聞いていました。確かに中学生から好きな道が決まっていれば、その道を前進する過程にどんな苦労があっても、その目的のために、打ち進んでいけるのではないかと、話を聞きながら共感していました。

菅生学園の歴史を一步一步繋げて励んでいく中、この中学生のように、自分の興味ある道をしっかり見つめて日々学んでいる菅生学園のひとりの中学生の生き方に、すばらしさを感じました。

「若き日に汝の希望を星につなげ」 東海大学創立者松前重義先生の言葉を目標に、これからも努力を惜しまず、励んでいただくよう、心から願います。

1. 理事長メッセージ
2. 菅生のあゆみ
3. 卒園・卒業式／入学式特集
4. 園長／校長メッセージ・トピック・活動報告・今後の予定
5. 菅生STEAMチャレンジ
6. 菅生のひとこま

編集後記



今年も正勝坂の桜が見事に咲きました

卒園・卒業式特集

多摩学院幼稚園



15名卒園

晴天に恵まれた3月12日、多摩学院幼稚園では51回目の卒園式が行われました。保護者の皆さんが見守る中、元気いっぱいの15名の園児が園を旅立っていきました。

菅生学園初等学校



12名卒業

初等学校の卒業式は3月16日に行われました。これに先立って、11日には6年生を送る会が開催されました。コロナウィルスの影響で恒例の劇と音楽の会は中止となってしまいましたが、送る会では全学年が音楽の器楽発表という形式で6年生を送り出すために音楽発表をしてくれました。

菅生高等学校中等部



70名卒業

中等部第25回卒業式は3月15日に行われ、保護者の皆様の祝福を受けて第25期生70名が巣立っていきました。式は厳粛な雰囲気の中で進行し、返事・所作などすべてが立派な態度であり、25期生の良さや持ち味が存分に発揮された式でした。

菅生高等学校



412名卒業（第37期生）

卒業式は3月8日に行われました。昨年同様に形態は卒業生と教職員、吹奏楽部、合唱部が体育館にて新型コロナウイルス感染症対策を講じて行いました。保護者は各家庭原則1名でHR教室で卒業式をライブまたはYouTubeの中継で観る形になりました。

ご卒業おめでとうございます
次のステップでも元気いっぱい活躍されることをお祈りします

入学式特集

菅生学園初等学校



28名入学

4月7日に元気いっぱいの新1年生を迎えました。
翌日の朝から、1年生の教室ではたくさんの上級生が1年生が来るのを心待ちにし、朝の準備を手伝ってくれました。

菅生高等学校中等部



87名入学

4月7日に87名の新しい仲間を迎えました。
緊張した様子も見られましたが、立派な入学式となりました。

菅生高等学校



412名入学

正勝坂の桜ドームが新入生を迎え、本校第一体育館で40期412名の入学式を行いました。形態は昨年同様に生徒、教職員、吹奏楽部、合唱部が参加しました。保護者はHR教室でライブ中継で入学式に参加しました。参加できない保護者はYouTubeでの配信も行いました。

ご入学おめでとうございます
菅生学園での日々が充実したものとなるようお祈りします



多摩学院幼稚園

園長メッセージ



仲野 三千代園長

＝柔軟で自律的な思考力を育てる＝

2021年度は、コロナ禍の中、工夫をして楽しい幼稚園生活を子ども達と一緒に過ごすことが出来ましたことを感謝いたします。2022年度がスタートして『教育・保育』活動が始まりました。

近年言われ始めた“VUCA”の時代に必要とされる教育に向かって子ども達に可能性を引きだし育てて行くことが大切とされています。子ども達に新しい時代を切り拓いていくために必要な資質・能力を育むために、園が地域や社会との接点を持ちつつ多様な人とのつながりを持ちながら学ぶことのできる、開かれた環境を整えていくことが不可欠であると思います。VUCAの時代を担う子ども達には、変化に対応し、持続可能な社会を実現できる能力が求められます。しかしそれらの能力は、従来の受け身の教育だけで身に付けることはできません。これまでの常識が通用しないVUCAの時代を生き抜くためには、柔軟で自律的な思考力が必要です。AIとの共存生活に対応できるよう、疑問に対して自ら考える力を育てる教育が大切です。物事の本質を見極める力や、自ら課題を設定し解決できる力を持つ人材が求められるでしょう。そのためにも（園児）子ども達の能力は無限の可能性があり、本来学ぶことが大好きです！好奇心旺盛な幼児期に、楽しみながら適切な教育を受けさせることが重要であり、新しい知識を幅広く吸収する力が必要です。幼児教育において土台形成、営生学園一貫校の出発点として、深い学びの充実。また、子ども達の人格形成の基礎に大きく関わる私たち保育教諭は、これからも園内園外研修を充実させ、子ども達とともに園全体の教育の質向上に努めてまいります。

トピック

2月3日に豆まきを行いました。コロナウイルス蔓延防止のため、大きな鬼のパネルを作成し工夫しました。大きな鬼は迫力抜群で、子ども達は大きな鬼を目の前だと驚いていて、近づくことを怖がっている様子もありました。

先生から「食べない鬼」「片付けない鬼」「いじわる鬼」を退治しようと話を聞き、子ども達も「やっつける！」とやる気十分でした。心の中の鬼を退治して、一年間元気に過ごせるよう、持っている豆を一生懸命投げていました。豆が鬼に当たると大喜びで、終わるころには「楽しかった！」と笑顔がいっぱいでした。

コロナ禍ですが子ども達が楽しめる行事ができ、よかったと思います。

みんな元気に鬼退治！



活動報告

1／4 2・3号児保育始まり
1／6 3学期始業式
1／21 なわとび大会
1／26 お誕生日会
2／3 豆まき
2／17 2・3月お誕生日会

2／25 マラソン大会
3／3 おひなまつり
3／12 第51回卒園式
3／18 修了式
3／31 2号児保育修了

1学期の活動

4／1 2号児保育始まり
4／6 1学期始業式
4／12 交通安全教室
4／14 父母の会総会
4／15 対面式・進級写真撮影
4／21 お誕生日会
4／22 こいのぼりマラソン
4／28 多摩学フェスティバル
5／12 遠足（園外保育）
5／16～26 年長面談
5／19 お楽しみ会
5／27 開園記念日（2号児
通常保育）

6／1 衣替え・内科健診
6／6 避難訓練引き渡し
6／6～9 保育、特色参観週間
6／10 歯科健診
6／13 水遊び始まり
6／16 お誕生日会
6／17 保育特色参観日
6／22 セタ仲良し会全体練習
6／24 セタ仲良し会全体練習
（仕上げ）
6／27 セタ仲良し会リハーサル

6／28～7／1 セタ仲良し会
写真撮影週間
7／2 セタ仲良し会
（保護者参観）
7／13 7・8月お誕生日会
7／15 1学期終業式
7／19 年長お楽しみ会
7／20～22 夏祭り
8／24～26 夏期保育

菅生学園初等学校

校長メッセージ



下平 孝富校長

＝本校でしかできない取り組みにチャレンジする1年に＝

春休み中は、あんなに静かだった校舎内が元気いっぱいの1年生の入学もあり、まるで別世界になっています。毎年この時期は子どもたちから元気なエネルギーをたくさんいただき、パワー満タンといった状態です。

さて、昨年度はコロナウィルスの流行に振り回された年度でした。他私学がリモートなどに移行せざるを得ない状況だったにもかかわらず、ご家庭での管理が良かったためか通常の授業を継続できたことは大変ありがたいと感じています。今年も教育を止めない1年となるようにがんばりたいと思います。

私立小学校の競争は熾烈です。どの私立小学校もとても素晴らしい教育を行っています。そのような市場で勝ち残るためには、他校との明確な差別化を図る必要があります。本校の場合は「ゆたか」の授業に代表される環境自然体験教育と考えます。菅生の環境を利用して本校でしかできない教育の実践を進めてまいります。

トピック

4月16日（土）に恒例となりましたシタケの植菌が行われました。新入生28名が保護者のみなさんと一緒に木づちでコマを打ち込みました。

一人一本ですが、30コマも打ち込まねばならずなかなか大変でした。前日からの雨も上がり、とても気持ちの良い朝でした。

2年後の収穫が楽しみです。

自然が大好きな菅生っ子になる第一歩



活動報告

1／8 始業式
1／11 身体測定
1／12 書初め大会
1／21 英語検定
1／29 漢字検定
2／12 入学児保護者会
2／19 劇と音楽の会
2／26 編入試験

3／8～14 個人面談期間
3／12 縦割りウォーキング
3／16 卒業式
3／19 修了式

その他プログラミング授業（全学年）
1／18、2／3 実施

1学期の活動

4／6 始業式
4／7 入学式
4／11～16 保護者会週間
4／18～22 個人面談
4／18 写生会
4／23 1年生を迎える会・学校説明会
5／14 父母の会総会
5／21 学校説明会（アフタースクール）
5／28 運動会
6／3 東初協一斉研修
6／11 授業参観・虫の夕べ
6／18 オープンスクール
6／21～24 6年生修学旅行（京都・奈良）
7／2 スガニア・イングリッシュ
7／5 東初協一斉研修
7／7～14 個人面談

7／15 終業式
7／19～21 3年生グリーンスクール（群馬県・嬬恋）
7／26～28 4・5年生海の生活（千葉県・保田）



菅生高等学校中等部

校長メッセージ

下平 孝富校長

＝変化の時代に備え、一貫教育を充実させる年に＝

少し大きめの制服と真新しい鞆を持った中学1年生の姿を見ると、数十年前、自分が中学生になった頃を思い出します。

一家転住のため、小学校からの同級生の全くいない公立中学校に入学をしました。入学式は誰も知る者がおらず不安でしたが、幸いなことにその中学校はいくつかの小学校から進学するような大きな学校だったので、全員が顔見知りということでもなく自然と友人ができました。模型づくりという同じ趣味をもっていたS君と知己を得て、還暦過ぎましたが、今も交流をしています。新入生諸君もそろそろ新しい友人と世界ができていく頃でしょうか。

中等部では、2023年度から総合進学クラスが一貫進学コースとして生まれ変わります。中等部から入学したメリットを生かし、東海大学に確実に進学できるコースコンセプトで運営してまいります。まだこれから詰めなければならない事項が山積ですが、変化の時代に対応した人材づくりに対する一つの回答であり本校が他校との差別化を図れるポイントになればと考えています。

トピック

4月12日（火）学びの城体育館にて新入生歓迎会が開催されました。生徒会を中心に、中等部の1日の流れ、行事の種類と内容、クラブ活動の紹介がありました。また、新入生を代表して小澤君が立派なお礼の挨拶を行いました。楽しい学校生活を送ってほしいと思います。

1年生の各クラスに植物がプレゼントされました



活動報告

1 / 8	第5回学校説明会	2 / 4	第3回入試（午前）	3 / 4	野鳥観察② 卒業遠足③
1 / 15	第5回理科実験教室	2 / 6	第4回入試（午前）	3 / 15	中等部卒業式
2 / 1	第1回入試（午前・午後）	2 / 11	入学準備説明会	3 / 19	修了式
2 / 2	第2回入試（午前・午後）	3 / 3	地域清掃	3 / 26	新入生招集日

1学期の活動

4 / 6	始業式	6 / 1	写生会
4 / 7	入学式	6 / 3	生徒総会
4 / 12	新入生歓迎会	6 / 4	学校説明会
4 / 13	スポーツテスト	6 / 11	理科実験教室
4 / 25	3年生校外学習（羽田）	6 / 16	芸術鑑賞教室
4 / 25～26	2年生校外学習（鎌倉）	6 / 17～20	授業公開
4 / 26～28	1年生校外学習（三保）	7 / 5～8	期末考査
5 / 7	学校説明会	7 / 16	オープンスクール
5 / 12	自然観察教室	7 / 19	全校集会
5 / 25～26	中間考査		



菅生高等学校

校長メッセージ



峰岸 英仁校長

= 2022年度 2つの変化 =

本校は創立から40年目を迎えています。今年度から2つの変化があります。1つは1年生から新しい学習指導要領に則った教育課程になり、観点別評価が導入されます。この意図は「主体的・対話的で深い学び」の環境整備です。本校が目指す「問題解決力向上」につながり、建学の精神が示している人材育成に近づけることを願っています。

もう一つは18歳で成人となることです。3年次には法的な保護者の存在がなくなります。したがって「保護者会」などの表現は不適当になります。昔のように「父母」でも良いとは思いますが、民主社会であるから、現実的な対応として最大公約数的な表現も認められるべきです。

現実的な対応と言えば、国の安全保障です。永遠の平和の追求は私たちの使命ですが、ロシアのウクライナ侵攻で明確になったのは、まずは生命を守らなければならない現実があるということです。主権者である3年生はこのようなことも考えて欲しいと思っています。

トピック

教員研修会 4月4日、学習アプリmonoxerの教員研修会を行いました。英単語や理科、社会...今日やった授業の内容を、多くの生徒は「わかった」で満足してしまいます。しかし実際のテストや検定試験で成果を出すためには、知識を受動的な「わかった」から能動的に知識を使える「できる」に変えなければなりません。Monoxerを使って効率的にしっかりと生徒に知識を暗記・定着させれば、わずかな時間で生徒一人ひとりを「できる」状態に導けるアプリです。

「わかった」から「できる」へ変える



活動報告

1 / 15	第3回英語検定	1 / 29	第3回漢字検定	3 / 10	答案返却日
1 / 19	小論文講演会	2 / 5	小論文テスト	3 / 15	再試指導
1 / 21	入試準備日	2 / 10	第1回一般入試	3 / 18	再試／再試判定会
1 / 22	推薦入試	2 / 11	第2回一般入試	3 / 19	修了式
1 / 24	看護・医療系ガイダンス	2 / 28～3 / 3	学年末考査	3 / 21	総進：基礎学力講座 (～24日)
1 / 25	公務員ガイダンス	3 / 3	追試		特進：春期講習(～25日)
1 / 26	大学個別相談会	3 / 5	一般入試ガイダンス		
1 / 28	記述模試(特進のみ)	3 / 8	卒業式		

活動予定

5 / 9～14	1 学年校外学習(儒恋研修センター)	7 / 4～7	定期考査B
5 / 14	2 学年保護者会	7 / 18	オープンスクール
5 / 24～27	定期考査A	7 / 19	全校集会
5 / 30～6 / 18	春季教育実習		
6 / 11	3年GTEC		
6 / 16	芸術鑑賞教室		
6 / 25	授業公開		

菅生 STEAMチャレンジ (4)

STEAM教育 ⇒S(Science 科学)、T(Technology 技術)、E(Engineering 工学)、A(Art 芸術)、M(Mathematics 数学)
このコラムでは、菅生学園の各園・校が取り組む様々な特徴あるSTEAM教育をご紹介します。
今回は菅生高校中等部医学・難関大コースのe-kagaku講座を紹介いたします。

中等部医学・難関大コースのSTEAM教育の中核として
始まったe-kagaku講座。

「将来的に大学や社会で役立つことを学ぶこと」を意識したカリキュラムとし、プログラミングやデータ・サイエンスを学び、いずれは実社会でも役立つ次のようなチャレンジも予定されています。

- ・宇宙観測器を成層圏に打ち上げ、環境データを分析する
- ・CT/MRI画像からがん細胞を見つけ出すプログラムを開発する
- ・自律型ロボット及びドローン、VRで社会貢献できるものを作る

今年入学した中学1年生も5月の授業ではプログラミングに挑戦。ロボット・プログラミングキットe-Gadgetで早速ロボットを動かしています。

北原先生は教科横断的な取り組みによってさらに学びが深まることも考えられていて、他教科の先生方の講座見学を呼びかけています。

北原 達正先生

京都大学理学部卒、同大学院理学研究科後期博士課程で宇宙物理学を専攻。
京都大学総合人間学部などで非常勤講師を務める。2003年に「子どもの理科離れをなくす会」を設立。国際科学技術コンテスト ロボカップジュニア運営委員、私立中学の最高教育責任者など、さまざまな要職に就く。



菅生のひとこま (3)

「菅生のひとこま」では菅生学園のさまざまな場所をご紹介します。第3回は学びの城「菅生FARM」です。

学びの城の門を入るとすぐ左手に初等学校の菅生FARMがあります。2014年「ゆたかの時間」開始と同時に始まった菅生FARMは、当初「SUGAO POTAGER」という名称で、野菜づくりからスタートしました。その後ゆたか委員会が決めた「菅生FARM」という名称になりました。2017年にはコンクリートの水田ができて今のような姿となりました。

昨年度、4年生は江戸野菜の1つ八王子市の高倉ダイコンの種を撒いて秋に収穫。また、東海大学教養学部自然環境課程の藤吉正明教授のご指導のもと、5月から蓼藍(タデアイ)を育てて収穫し、藍染を行いました。

水田では、東京農業大学講師野口金雄先生にご指導いただいて田植えを体験し、秋にはお米を収穫しました。野口先生と野菜づくりをお手伝いいただいている野口正巳さんはいずれも菅生町内会の方です。

FARMの作物を使って加工も行い、4年生は蓼藍で藍染を、5・6年生は大豆から味噌づくりに挑戦しています。



2017・2018年度委員会の児童が現在のタイル看板を制作しました



マンゲツモチという品種のもち米の苗を植えました



収穫した蓼藍から藍染にもチャレンジ



畑で収穫した大豆から一年がかりで味噌づくりも

編集後記



春休みで静かな学びの城の庭で桜が満開になりました

初等学校、中等部、高校ともに今年は美しく咲いた桜の下で新入生を迎えることができました。

日本国内、そして世界で起きている様々なニュースに、私たちが今まさにVUCAの時代を生きていることをあらためて認識させられます。どんな時代でもたくましく生きていく力を子どもたち一人ひとりが身に付けられるよう、学園も一歩また一歩と前進し、輝かしい歴史を繋いでいきましょう。